

韓国大学生と成人が認識する成功的老化の構成要素

○ホソ大学校ベンチャー専門大学院老人福祉学科 Sang Hoon Choi

ホソ大学校教養学部大学 Sun Hee Song

〔キーワード〕 成功的老化、大学生、成人、韓国

1. 研究目的

1986年アメリカで初めて成功的老化（Successful Aging）概念が紹介（鄭スンデウル 2007）されてから国内外的に様々な学者によって成功的老化概念に関する研究が試みられてきたが、今なお学者間で成功的老化とは何か、その構成要素は何か、どのように測定すべきかについて差異がみられる。また、成功的老化に対する従来の国内研究ほとんどは、老人人口集団のみ対象にしており、多様な世代と人口集団への研究は相対的に十分ではないのが現状である。老人の成功的老化は彼らが意味するものと、中年や青年が認識するものとは全く異なる意味になりえる。従って、一つの社会内において世代によって老化の経験は、まったく異なる基準を適用するようになり、成功的老化に対する認識も違ってくる可能性が高く（鄭ビョンウン・李ギフン 2010）、世代別に人生を歩みながら、経験する多様な経験の違いと該当世代の発達課題及び価値観などは、成功的老化の意味と成功的老化の構成要素を異なったものとしてみるべきものとして考えられる。

従って、本研究では従来の多くの成功的老化研究がその対象とした老人人口集団ではなく、学生と成人を対象にし、一般の人々の心の中にある彼ら自身の概念と信念を確認する暗示的アプローチを通して、各集団の成功的老化の構成要素とは何かを確認することを試みる。また、その構成要素間の違いが存在するかを確認し、今後、対象者による成功的老化関連教育と世代別ホダゲメド型福祉制度の具現のための基礎資料を提供しようと試みた。

2. 研究の視点および方法

予備調査（Study1）では、大学生 308 名と成人 211 名を対象に、成功的老化とは何かを考えるオープンクエスチョンで資料を収集し、回答は内容分析（Content Analysis）し、それぞれ 77 個と 75 個の成功的老化特性項目が導出された。以後、本調査（Study2）では、これらの 77 個と 75 個の項目を質問項目として構成し、大学生 331 名、成人 253 名に各項目で提示した成功的老化特性項目について評価させた後、因子分析を通して成功的老化の構成要素を抽出した。収集された資料の統計分析の際には SPSS21.0 を用い、平均、標準偏差などの記述統計と主成分分析と Varimax 回転法を用いて要因分析を実施した。

3. 倫理的配慮

ヘルシンキ宣言に基づき、資料収集前に全対象者に本研究の目的と質問内容及び範囲を口頭及び書面で説明し、これを理解し自意で本研究に参加しようとした対象者に限って書面同意書を作成した後、回答していただいた。また、質問紙作成中いつでも同意を撤回することができ、中断できること、これによる被害は生じないことも説明した。質問紙は、

無記名で作成していただき、回答者が把握できるような質問は含んでいない。

4. 研究結果

本調査 (Study2) の因子分析結果、大学生の成功的老化構成要因として「目標意識」、「生活の満足」、「積極的活動」、「健康と心理的安寧」、「むつまじい過程」、「準備された人生」、「他人との関係」、「自己効能感」の8つが導出され、これらが説明する分散は各 34.86%、5.15%、4.23%、3.97%、3.17%、3.03%、2.69%、2.44%であった。成人は「順調な日常」、「人生への姿勢及び態度」、「目標意識」、「家族の健康とむずましさ」、「安定した生活」、「現実受容及び他人との関係」、「夫婦間の同伴者的な人生」の7つが導出され、これらが説明する分散は各 38.06%、6.44%、5.52%、4.09%、3.79%、3.37%、2.97%であった。

5. 考察

本研究結果、大学生と成人の成功的老化の構成要素において「目標意識」が同じく発見された。これは国内外的に「目標意識」を成功的老化の構成要素として提示した研究が非常に低い割合であることを考慮すると、とても価値ある結果であると考えられる。老人の場合、「目標意識」をもって何かを持続することによって自分自身の人生が価値あると感じることを維持することが重要であるという先行研究の結果を支持するものとなる。また、大学生と成人においても、「目標意識」を維持することが成功的老化の主要な構成要素であることを明らかにするものとなる。各個人が成し遂げようとする目標は多様となりえるが、今後、成功的老化を測定する際に、各個人の価値と目的、期待を反映した基準を提供することが非常に重要であることを改めて確認できたと言える。他にも、大学生は「他人との関係」、成人は「現実受容及び他人との関係」と多少違いはあるものの、いずれも「他人との関係」を成功的老化の要因としていることが分かる。また、大学生は「むつまじい家庭」、成人は「健康とむずましさ」と多少違いはみられるが、家族と家庭のむずましさを成功的老化の要因としていることがいずれにも発見できた。反面、両集団間の違いとして大学生の場合、成人には発見できなかった「積極的な活動」、「準備された人生」、「自己効能感」などの要因が発見された。成人の場合には、大学生からは発見できなかった「順調な日常」、「安定した生活」、「夫婦間の同伴者的な人生」などの要因が発見された。このように大学生の成功的老化要因として「目標意識」が最も大きな説明力を持つ要因として確認されたことや、成人には発見できなかった「積極的な活動」、「準備された人生」、「自己効能感」が発見されたことは、大学生が考える成功的老化が主に、老人人口を対象にした既存研究において確認された成功的老化概念及び構成要因と比べても、独立的で積極的であることが分かる。反面、成人の場合には大学生に比べ、より順調で安定した生活を成功的老化の重要構成要因と認知しており、成功的老化を成す過程で夫婦間協力と同伴者的役割の重要性を認知している点が特徴となる。